

《人権を尊重した主な取組や成果》

団体名の「Adaptive」は適合という意味です。当団体 (HAS) は、障がい者スポーツの普及に取り組み、「性別や年齢、障がいなどに関わらず、誰もがスポーツを楽しめるよう、ルールや用具を適合させていけばいい!」という考えを広げ、「北海道の障がい者スポーツの拠点となる」ことを目的に設立しました。

HASでは、チームやスクール、イベント等の様々なスポーツ活動にトライすることができます。障がいの有無、競技種目、性別や年齢、志向にとらわれず“すべての人がスポーツを楽しめる社会づくり”の一端を担える組織を目指しています。

特に力を入れている取組

パラスポーツ・スクール活動

複数の種目、志向やレベルに合わせて参加できる本格的なパラスポーツクラブを運営しています。専門的な指導者のもと、活動場所の少ないジュニアパラアスリートのために、札幌市を中心に週1回程度のスポーツプログラム(スクール)を提供しています。このスクールでは、障がいの有無、性別や年齢などに関わらず、その場に集まった全ての人を楽しめるよう、ルールや用具を柔軟に適合させて活動しています。

女性 子ども 障がいの
ある人

パラスポーツ・クラブ活動

HASはスポーツチームとして、パラリンピックなどの国際大会に出場するハイレベルな所属選手を支援するとともに、U-25ユース世代のチームを形成し、大会出場を目指したトレーニングや道外遠征などを行いながら、競技力・チーム力の向上を図っています。2020年には、札幌市内で借りた倉庫を、HASメンバー自ら改装し、練習施設「SOKO」を開設し、子どもたちやパラアスリートが時間と場所を自分で確保して、好きな時にトレーニングできる環境を整えました。

女性 子ども 障がいの
ある人

パラスポーツを通じた 共生社会の実現

HASは活動・遠征に当たって、使用施設、航空機などの交通機関、ホテルなど様々な企業・団体と連携します。その連携のプロセスにおいて、意見交換や体験、理解を通じて、「共生社会」の実現に繋がるよう取り組んでいます。

女性

子ども

障がいの
ある人



関連した取組

■SDGsの取り組みと目指すゴール

企業のCSR (Corporate Social Responsibility) とアスリートのASRを掛け合わせることで、アスリートの社会活動が社会的価値を生み出し、CSV (Creating Shared Value) につながると考え、スポーツだけではなく、自然環境や社会制度、教育などの課題にもスポーツ活動を通して向き合っています。



会社概要

競技人口の少ない北海道においては、年齢や性別、障がいに拘らず、選手が様々な種目に取り組めるようなシステムが必要です。世界で活躍できる選手を育成するためには、発育発達段階に合わせたプログラムや学生プログラムなどのジュニア世代の競技環境の整備が大切です。

当団体の創設者が1年間のアメリカ・パラスポーツ留学で学んだことを、北海道の競技環境へ適合させていきたいと考えています。

北海道のこの拠点がモデルとなり、全国へ、そして世界へと発信していきたいと考えています。

企業情報

設立年	2019年(令和元年)
資本金	—
代表者	代表理事 齊藤 雄大
従業員数	66名(クラブ会員数)
本社所在地	札幌市

[団体ホームページURL] <https://h-adaptive-s.com/>